

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	千葉県	事業実施主体	千葉県、館山市、木更津市、鴨川市、君津市、富津市、袖ヶ浦市、南房総市	地域再生計画名	「東京湾アクアライン・東関東自動車道館山線等のポテンシャルを最大限生かすための地域活性化計画」
計画期間	平成29年度～令和3年度	評価責任者	千葉県総合企画部長、農林水産部長、県土整備部長、館山市総合政策部長、木更津市企画部長、鴨川市経営企画課長、君津市企画政策部長、富津市総務部長、袖ヶ浦市企画財政部長、南房総市総務部長		

地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標の達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価		
			基準年度	年度	中間実績	基準年度	指標 総数	達成 数						
	指標 1	人口の社会増	594人	平成26年	2,500人	令和元年	1,756人	3,200人	令和 3 年				社会増数は平成29年以降年々増えているが、中間目標値には及ばなかった。市別に見ると、木更津市、袖ヶ浦市の転入者数が多く、君津市の転出者数が多い。	
	指標 2	農業の活性化（花きの生産額の年2%の増加）	314,856千円	平成27年	340,809千円	令和元年	374,636千円	354,577千円	令和 3 年	○	5		2	最終目標値を達成したが、市況は厳しい状況にあるため、引き続き現状を維持することを目指す必要がある。
	指標 3	農業の活性化（びわの生産額の維持）	161,156千円	平成28年	161,156千円	令和元年	125,929千円	161,156千円	令和 3 年	×			6次産業化などの担い手支援を行っているところであるが、農家の高齢化に伴う離農や経営規模の縮小により、生産額が中間目標値を割り込んだ。	
	指標 4	観光交流の活性化	35,880千人	平成27年	41,250千人	令和元年	34,544千人	43,930千人	令和 3 年	×			平成30年までは毎年増加していたが、令和元年は台風や大雨の影響等により、基準値を下回った。	
指標 5	地域住民が安全・安心に暮らせる地域の増加（緊急輸送道路へのアクセス本数が増加する地区の増加）	0地区	平成27年度	0地区	令和元年度	0地区	7地区	令和 3 年度	○	令和元年度の中間実績は0地区であるが、中間目標値も0地区であるため、目標は達成である。なお、現在0地区であるが、令和2年度末までに緊急輸送道路へのアクセスが2地区増加する見込みである。				
地域再生計画に記載した 数値目標以外の波及効果の 実現状況	指標 1													
	指標 2													
事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）				事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（R元）		最終実績見込み								
特別措置を適用して行う 事業	市道整備事業（整備延長）		5,781	m	1,008	m	5,781	m	進捗率は17.4%である。木更津市の2路線（市道101-2号線、市道金田1号線）が完成した。引き続き計画に則した整備を目指していく。					
	うち個別の路線		5,781	m	1,008	m	5,781	m						
	市道A 9052号線（館山市）		606	m	0	m	606	m	進捗率は0%であるが、概ね用地取得が完了しており、埋蔵文化財調査を実施し、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。文化財調査等にかかる事業費増の軽微な変更を予定している。					
	市道B 101-2号線（木更津市）		125	m	125	m	125	m	進捗率は100%であり、事業は完了している。					
	市道C 金田1号線（木更津市）		140	m	140	m	140	m	進捗率は100%であり、事業は完了している。					
	市道D,E 2025号線・2469号線（木更津市）		450	m	275	m	450	m	進捗率は61%であるが、用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。					
	市道F 6431号線（木更津市）		700	m	0	m	700	m	進捗率は0%であるが、用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。					
	市道G 貝渚大里線（鴨川市）		760	m	468	m	760	m	進捗率は61%であるが、用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。					
	市道H 八重原線（君津市）		800	m	0	m	800	m	進捗率は0%であるが、概ね用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。					
	市道I 小山野・山高原線（君津市）		800	m	0	m	800	m	進捗率は0%であるが、用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。道路法面の強化が必要であり、事業費増の軽微な変更を予定している。					
	市道J 小久保岩瀬線（富津市）		900	m	0	m	900	m	進捗率は0%であるが、用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。（令和2年5月に500m完了。）（進捗率56%）					
	市道K 都市計画道路高須箕和田線（袖ヶ浦市）		500	m	0	m	500	m	進捗率は0%であるが、概ね用地取得が完了しており、一部区間で工事を実施している。引き続き計画に則した整備を目指していく。					
	広域農道整備事業（整備延長）		3,200	m	1,374	m	1,796	m	令和元年房総半島台風等の影響により、JR東日本内房線の横断工事に想定以上の工期を要し、また、東京オリンピック等を背景とする建設需要の高まりにより工事コストが増嵩したことから、計画延長に対する整備率は43%と遅れが生じているため、期間の延長等、計画変更を検討する必要がある。引き続き計画に則した整備を推進することで目標の達成に取り組むこととしたい。					

その他の事業	(1) 地方道路交付金事業の活用	地方道路の整備を進め、地域生活環境の向上と本地域へのアクセス改善を推進	地域生活環境の向上と本地域へのアクセス改善のため、引き続き、国土交通省の社会資本整備事業を活用した地方道路の整備を進め、地域道路網の充実を図っていく。
	(2) 6 次産業化・農商工連携の促進	農水産物の高付加価値化と高収益化を推進し、農林漁業者の所得向上を図るため、食品加工業者など他業種との連携や6 次産業化サポートセンター、千葉県産業振興センター等の支援により、地域ブランドとなる新商品の開発やマーケットの創造による需要の拡大を促進する。	・農林漁業者が自ら生産から加工・流通や販売まで携わり経営の多角化を目指す「6 次産業化」を推進するため、農林漁業者からの相談にワンストップで対応する窓口として、千葉県6 次産業化サポートセンターを設置し、県内事業者にも新商品企画や事業計画作成、販路開拓等に関する支援を実施した。 ・行政、農林漁業、商工、金融等の関係機関で構成する「6 次産業化・農商工連携協議会」を設置し、6 次産業化等に関する戦略の策定・検討及び戦略に関する交流会を開催した。 ・経営感覚をもって6 次産業化の事業に取り組める人材を育成するため、経営、マーケティング、資金調達等に必要な知見を得るための講義を行うとともに、加工・販売等の実践的な経験をj得るため、6 次産業化等に取り組んでいる事業者等へのインターンシップ研修を合わせて実施した。 ・中小企業者等と農林漁業事業者とが連携して行う新商品開発等の取組を促進し、地域経済の活性化を目指すため、ちば農商工連携事業支援基金による助成事業を行った。 ・南房総産ビジネス倶楽部では、専門家を招聘して6 次産業化に興味のある事業者向けのセミナーの開催や、都市部への視察研修を行った。また、都心の店舗を借り上げて南房総の新鮮な農水産物や新開発商品などを生産者が店頭販売するイベントを開催した。
	(3) 農山漁村等の活性化に向けた地域資源の活用事業	多種多様な農林水産物や美しい農村風景などの地域資源を活用した農林漁業体験施設、農林水産直売所等に観光客の受け入れを進める。また、地域資源を活用した新商品、新サービスの開発・事業化に取り組む中小企業者等を支援する。	・グリーン・ブルーツーリズム関連施設を紹介するガイドブックを作成しPRを行った。 ・農林水産物直売所の活性化を図るための研修会等を開催した。 ・農林漁家体験民宿について取組の活性化を図るため関係機関や民宿経営者等を対象に勉強会を開催した。 ・県内の直売所の支援として、スタンプラリーやイベントなどによる「ちばの直売所フェア」を行った。 ・県内の地域資源を活用した事業を行う中小企業等を対象に、地域資源活用アドバイザーによる相談、専門家派遣による支援を行い、千葉の地域資源を活用した商品開発支援、セミナーを行った。 ・「ちばの地域資源活用商品ロゴマーク」を作成し、県内中小企業の地域資源を活用した商品について、使用許諾を行っている。
	(4) シティプロモーション事業	定住・交流人口の増加や、観光の振興等を図るため、ホームページ等による情報発信を強化するとともに、各種イベント等において地域の魅力をPRする。また、ちばアクアラインマラソンを始めとした当地域での大型イベントにおいては、引き続き連携してPR活動を実施する。	・三井アウトレットパーク木更津内「チーバくんプラザ」にて観光案内を行うとともに、県内の観光情報が一元的に把握できる「千葉県公式観光物産サイト」やSNSで情報発信を行っている。 ・ちばアクアラインマラソン2018に関する取組として、100 日前や前日イベントを連携して開催し、抽選会等により事業実施市の特産品をPRした。
	(5) アクアラインを活用した企業誘致の推進	袖ケ浦椎の森工業団地2 期地区について、平成29 年度から分譲を開始するため、県と袖ケ浦市で企業誘致を推進するとともにかずさアカデミアパークとの連携に向け（仮称）かずさインターチェンジの整備を促進する。	・袖ケ浦椎の森工業団地については、分譲が開始されすべて落札された。 ・圏央道の（仮称）かずさインターチェンジについては、早期整備を図るよう引き続き、国に要望していく。
	(6) 地域防災力の向上	災害から住民の生命・身体・財産を守るため、自主防災組織の育成強化や消防団員の確保、消防団の活性化、自助・共助の防災意識を高める防災教育等を推進し、自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上を図る。	・自主防災組織の結成や活動を促進するため、平成27 年度から「千葉県地域防災力向上総合支援補助金」を実施し、市町村の事業に対し補助を行った。自主防災組織の優良団体の表彰を行い、その活動を広く周知した。 ・消防団については、消防団の活動紹介・救急救命体験を主な内容とした消防団活動PRイベントや、高校に出向いて消防団員による講話を行う消防・防災出前講座などを実施した。
	計画外で独自に実施した事業		
評価方法	学識経験者（1 名）の意見を求め、中間目標値の実施状況について関係部局と評価・検討を行った。		
中間評価の公表方法	千葉県、館山市、木更津市、鴨川市、君津市、富津市、袖ケ浦市、南房総市のホームページに掲載		
計画全体の総合評価	・広域農道と市道を一体的に整備して、農産物の生産地から消費地へのアクセス向上、観光地や勤務地等への渋滞解消等を図るとともに、6 次産業化の促進等を併せて行い、主要産業である農林水産業や観光関連産業を活性化させ、人口減少の抑制を目指すことを目標としている。 ・計画の目標については、5 項目中2 項目が中間目標を達成した。 ・花きの生産額については、順調に増加し、中間目標を10 % 上回る実績となった。人口の指標については、年々増加し、一定の効果が見られるものの、一部の地域では人口減少の影響もあり、中間目標には届かなかった。観光の指標については、増加の傾向があるものの、台風や大雨の影響により、中間目標には届かなかった。びわの生産額については、農家の高齢化に伴う離農等のため減少し、現状維持とした中間目標値を割り込むこととなった。 ・市道については、木更津市内の2 路線の整備が完了しており、引き続き残りの市道の整備を進めるとともに、広域農道についても整備を進める必要がある。また、広域農道については、令和元年房総半島台風等の影響等により、進捗が遅れていることから、計画変更が必要である。 ・今後は、当交付金を活用する事業と併せ、6 次産業化・農商工連携の促進やシティプロモーション事業等を実施することにより、農産物の高付加価値化や、農業の担い手確保、移住定住の促進を図るとともに、地域防災力の向上と併せて台風や大雨被害からの復旧・復興にも力を入れ、目標の達成を目指していく必要がある。		
今後の方針等	中間評価結果の反映状況		有りの場合その具体的内容
	地域再生計画の見直し（有・無）		（市道）埋蔵文化財の発掘調査の調査内容が変更になったことなどから、事業費の増額変更を予定している。 （広域農道）台風の影響等により、計画延長に対する整備率に遅れが生じていることから、計画の変更を予定している。
	令和2 年度交付金要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円		なし
今後の方針等に対する対応	整備量及び事業費を変更するため、軽微な変更を行う必要がある。 計画期間を変更するため、計画変更を行う必要がある。		